

東シベリアシルクロード

貿易促進協議会

20周年

1992 - 2012

歴史と浪漫

そして

未来への挑戦

# 東方水とシルクロード

歴史と浪漫 そして 未来への挑戦

---

東方水上シルクロード貿易促進協議会  
20周年記念誌

# 発刊にあたって



東方水上シルクロード貿易促進協議会 会長

## 新田 嘉一

東方水上シルクロード貿易促進協議会が設立20周年を迎えることが出来たことは、ひとえに、中国黒龍江省人民政府関係機関はじめ哈爾濱市人民政府及び多くの友人の皆様と日本の中央関係官庁、山形県並びに酒田市と鶴岡市、そして庄内地域の関係機関と、当協議会会員企業の絶大なご支援とご協力の賜物であります。ここに、私は東方水上シルクロード貿易促進協議会の会長として、そして私個人の名義においてご支援ご協力を頂いた日中両国全ての皆様に対し、衷心より感謝の意と御礼を申し上げる次第です。

環日本海時代の到来と言われていた1992(平成4)年12月17日に、東方水上シルクロード貿易促進協議会の設立総会が開催されてから早いもので20年の歳月が経過しました。

1972年の日中国交回復以来40年を経過した2012年は、この40年間の良好に拡大してきた日中関係が残念ながら思わしくない状況に陥っています。極めて遺憾なことであります。

しかしながら、私たち東方水上シルクロード貿易促進協議会が歩んできた、経済貿易交流を中心にして中国及び黒龍江省との交流往来は一切否定されるものではありませんし、更に今後も交流拡大を目指さなければならないと感じております。また、このような日中関係だからこそ、私たち東方水上シルクロード貿易促進協議会が歩んできた道程や成果を正確に記録に留めておくことが後世への歴史認識として大切であると考え、設立20周年の記念誌を編纂し発刊することに至りました。宜しくご理解のほどお願い申し上げます。

思い起こせばこの交流の始まりは、1980年代に中国黒龍江省人民政府からの畜産指導要請があり、私が初めて中国黒龍江省を訪問したことからでありました。当時の中国は、改革開放政策が開始され各方面の分野での近代化を進める必要がありました。また、当時の日本の畜産業界は子牛の価格

が高騰し、地元庄内の養牛家が困難を極めていたところで、私は中国黒龍江省の広大な土地と資源をお借りして現地で子牛を育成することが出来ないものかと模索しているところでした。双方の思惑が合致し、且つ、黒龍江省政府の要請を受けて、黒龍江省の東部に位置する七台河市の農場視察に黒龍江省人民政府が手配した軍用ヘリコプターで出かけたことから始まります。搭乗した軍用ヘリコプターの機上から見えた河川が「松花江」でありました。その松花江は中国三番目の大河である「黒龍江」の支流で、松花江と黒龍江は同江市で合流し、ロシア領域のアムール川を経て海に注ぎ、間宮海峡を通過して日本海に繋がっていることを、後で知ることとなります。

1992年1月には中国交通部とロシア交通部との交渉を経て、ロシアのアムール川を中露国籍の船舶が通航可能になる契約が調印され、中国にとっては1858年に中露間で締結された「璦琿条約」締結以来、当時で134年振りに中国の船舶が、黒龍江とアムール川を航行して海に出る画期的なことでありました。

この航路の名称は、中国語で「江海聯運航通道」（河と海を一貫航行する航路）と呼ばれていますが、私たちは、この航路の名称を過去の歴史と浪漫に想いを馳せながら「東方水上シルクロード航路」と命名しました。

この航路の開通には、私たちが永遠に忘れることが出来ない人物がいます。その人物は杜顕忠先生です。当時杜顕忠先生は黒龍江省人民政府の常務副省長でありました。私の黒龍江省訪問時のお世話や東方水上シルクロード航路の中露政治的問題の解決、黒龍江省内部調整など全て杜顕忠先生の指導の下で行われてきました。残念ながら、杜顕忠先生は東方水上シルクロード航路開設10周年目にあたる2002年5月にご逝去されました。この20周年の記念を杜顕忠先生とご一緒できなかったことが誠に残念であり悔やまれてなりません。ご冥福を祈るばかりです。

この20年間、東方水上シルクロード航路の開設は勿論のこと、山形県の委託を受けて1996年の中国哈爾濱経済貿易商談会からその後2012年まで連続出展し、黒龍江省からも高い評価を受けています。また、2009年の哈爾濱商談会においては光栄にも黒龍江省側から最高級の評価を受け「功勳賞」を受賞することが出来ました。これもひとえに、黒龍江省の関係者の皆様は当然のこと、山形県及び酒田市と鶴岡市の関係機関、並びに17年間に出席頂いた延べ386の企業と団体の皆様にも併せて心から感謝申し上げます。

この20年間の思い出は、私の挨拶文だけでは書き尽くせませんので、この記念誌には「東方水上シルクロード貿易促進協議会の20年のあゆみ」をはじめとして、項目ごとに掲載していますので是非ご覧頂きたく存じます。

環日本海時代、北東アジア大交流時代と呼ばれる中で、山形県も対外交流の重要性がますます大事になると考えています。これからも、中国及び黒龍江省との経済貿易の相互交流拡大に留まらず、文化、教育、観光など多くの領域交流の拡大を目指して会員企業共々、命のある限り、努力して参る所存です。今後も引き続き、多くの皆様にご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。20周年記念誌の編纂発刊のご挨拶とさせていただきます。

# 東方水とシルクロード

東方水上シルクロード貿易促進協議会

1992-2012

## 目次

### 発刊にあたって

東方水上シルクロード貿易促進協議会  
会長

新田 嘉一 ..... 2

### 祝 辞

山形県 県知事

吉村 美栄子 ..... 5

酒田市 市長

本間 正巳 ..... 6

国土交通省東北地方整備局 副局長

梶原 康之 ..... 7

東北公益文科大学 学長

町田 睿 ..... 8

(社)日本港湾協会 名誉会長

栢原 英郎 ..... 9

酒田商工会議所 会頭

佐藤 淳司 ..... 10

黒龍江省人民政府外事弁公室 主任

趙 爾力 ..... 11

元黒龍江省省委 書記

宋 法棠 ..... 12

元黒龍江省人民政府 副省長

馬 淑潔 ..... 13

元黒龍江省江海聯運促進協調委員会 主任

賈 福林 ..... 14

中国国際貿易促進委員会黒龍江省委員会

中国国際商会黒龍江商会 会長

馬 興利 ..... 15

中国哈爾濱經濟貿易商談会弁公室 主任

陳 殿運 ..... 16

黒龍江東北林業大学 校長

楊 傅平 ..... 17

元黒龍江省航運管理局 常務副局長

陳 雪楽 ..... 18

哈爾濱嘉天房地產開發股份有限公司

董事長兼總經理

桑 洪 ..... 19

黒龍江省天正糧油食品進出口股份有限公司

黒龍江省對外經貿集團 董事長

王 曉天 ..... 20

齊々哈爾濱富佳機械修造有限公司 董事長

陳 双林 ..... 21

### 歴史と浪漫 そして

未来への挑戦 ..... 22

20年の歩み ..... 30

### 哈爾濱代表処の

あゆみ ..... 74

定期協議会議事録 ..... 86

### 講演・シンポジウム・

フォーラム開催事業 ..... 94

受賞記録 ..... 110

### 哈爾濱国際経済

貿易商談会 ..... 112

### 中国黒龍江省産

とうもろこし輸入状況 ..... 122

合弁・合作企業概要 ..... 124

黒龍江省概況 ..... 126

特別顧問 ..... 128

顧 問 ..... 128

参 与 ..... 129

役 員 ..... 130

会員名簿 ..... 131

協議会組織 ..... 134

規 約 ..... 135

歴代の役員 ..... 137

江海聯運の詩 ..... 138

あとがき

# 設立20周年を祝して

山形県 県知事

吉村 美栄子



東方水上シルクロード貿易促進協議会が設立20周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

中国などアジア諸国の急速な経済成長が進む中で、本県経済の成長、活性化を促進するため、これらの地域との多面的な交流連携を強化・拡充していくことが重要な課題であり、中でも中国は、世界第2位の経済大国として、富裕層や中間層の拡大による購買力の向上により、世界から注目される市場となっております。

そのような動きの中で、貴協議会は、これまで、本県と友好県省の盟約を締結している中国黒龍江省を中心に、中国ハルビン国際経済貿易商談会への本県出展団の運営や県産農水産物の輸出促進、県内企業の現地活動に対する支援などの経済交流や、両県省の大学間における学術交流、さらには、訪中団の派遣や省政府等関係者の派遣受入れなど、さまざまな分野で、相互交流の促進に多大な成果を挙げてこられました。特に、平成24年3月までの約15年間にわたるハルビン代表所の活動は、本県と黒龍江省の架け橋として重要な役割を担われてきたところであり、心から敬意を表します。

県におきましても、中国との交流展開の拠点として平成23年10月に開設したハルビン事務所の活動を通じ、貴協議会が長い年月をかけて培ってきた人脈や、蓄積されたノウハウをさらに発展・拡充させながら、しっかりとした人的ネットワークを構築して相互の理解と信頼を一層深め、中国、特に黒龍江省をはじめとした東北三省と、貿易や観光、学術・文化など多方面にわたる交流を推進・深化させていきたいと考えております。

結びに、貴協議会会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

# 祝 辞

酒田市 市長

**本間 正巳**



東方水上シルクロード貿易促進協議会が20周年を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。

平成4年に中国黒龍江省ハルビン市から松花江と黒龍江、アムール川を経て酒田港を結ぶ東方水上シルクロード航路の開設を契機として、その年の12月に東方水上シルクロード貿易促進協議会が設立されました。それから20年もの長きにわたり、多くの困難を乗り越えられながらも、中国ハルビンと酒田港とを結び、物流のみならず人や文化の交流に積極的に取り組まれ、中国と日本の掛け橋として御活躍されてきました新田嘉一会長様はじめ協議会の皆様の熱意とご努力に対し心より敬意を表します。

貴協議会では、東方水上シルクロード航路を利用した飼料用トウモロコシの輸入をはじめ、中国ハルビン国際経済貿易商談会への出展や中国と日本の相互使節団の派遣・受入など、多くの活動に積極的に取り組まれ、これまで数多くの成果を挙げてこられました。その成果が認められ、山形県産業賞や山新3P賞の繁栄賞、運輸省第一港湾建設局長表彰など、数々の賞を受賞され、今後の更なる活躍に期待しております。

その東方水上シルクロード航路の発着地である酒田港は、山形県唯一の重要港湾であり、平成22年に重点港湾、翌23年には日本海側拠点港のリサイクル貨物部門に選定されました。今後、中国をはじめとする日本海沿岸各国との交易が更に拡大し、日本海側のゲートウェイとしての役割がますます期待されているところです。

酒田市としましては、港湾管理者である山形県と連携しつつ、東方水上シルクロード貿易促進協議会の皆様と共に、官民一体となって、中国との交流を拡大することにより更なる酒田港の発展を目指してまいりますので、今後とも貴協議会のご協力をお願い申し上げます。

最後に、東方水上シルクロード貿易促進協議会の今後益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。

# 対岸諸国とのさらなる交流・ 交易拡大に向けて

国土交通省東北地方整備局 副局長

**梶原 康之**



東方水上シルクロード貿易促進協議会が設立20周年を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

中国は、GDPで日本を追い抜き、世界第2位の経済規模を誇る大国となりましたが、貴協議会が設立された1992年は、WTOに加盟する9年前であり、あの驚異的な経済成長が始まる前の時期でした。10億人超の人口を抱え、その潜在力は当時から注目されており、いつか生産基地として発展し、また、とても魅力的な市場となるだろうと言われていました。ただ、その「いつか」がいつになるのか、なかなか予測のつかない状況でした。

そのような混沌とした状況にある時期から、中国との貿易促進を構想し、飼料用トウモロコシの輸入、使節団・視察団の派遣・受け入れ、商談の支援、現地での拠点の設置等、実に幅広く交流・交易の拡大に取り組んでこられた貴協議会の先見性と実行力に改めて敬意を表します。

この間、酒田港におきましては、定期コンテナ航路の就航、国際ターミナルの供用等により、対岸諸国との物流の動脈機能を充実させてきております。

また、循環型社会の構築に貢献する総合静脈物流拠点港として関連産業の集積が進んでおり、リサイクル機能に関する日本海側拠点港に指定されているところです。中国国内ではまだ発展途上にあると考えられる資源循環の分野で酒田港が貢献していくことが、日本海を挟んだ両岸地域が互恵的な関係を築き上げていくうえでの鍵になってくると考えられます。その際、貴協議会が20年の長きにわたる活動によりつくりあげてきた対岸国との関係は、貴重なソフトインフラとなるでしょう。

そういう情勢を踏まえつつ、東北地方整備局におきましても、関係機関・団体、港湾利用者の皆様と連携して、酒田港の機能強化に努めてまいりたいと考えております。

東方水上シルクロード貿易促進協議会が対岸諸国とのさらなる交流・交易拡大に向けて益々ご発展・ご活躍されることを祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。

# 東方水上シルクロード貿易促進協議会 設立20周年に寄せて

東北公益文科大学 学長

町田 睿



東方水上シルクロード貿易促進協議会が設立20周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

20年もの長きに渡り、地域経済の発展や酒田港の整備促進のために心血を注いでこられた新田会長をはじめ、関係者の皆様方のご努力に対して深く敬意を表します。

顧みますと、貴協議会が設立された1992年当時、対中貿易の額は対米のそれと比較すると1/3程度の規模でありました。それが今や両者の立場は完全に逆転し、対中貿易の額は対米の2倍にまで拡大しております。そうした経過の中で、貴協議会は、飼料用トウモロコシの輸入にはじまり、近年では山形県産米の中国輸出を実現されるなど、多大な功績をあげてこられました。これらの成果は、決して一朝一夕に得られるものではなく、関係者の皆様の並々なご努力と、長年に渡る人的交流の積み重ねの上に花開いたものと推察します。

中国との経済交流の重要性にいち早く着目し、その発展のために事業を継続してこられた新田会長の先見の明には改めて驚かされます。

現在、グローバル化の進展に伴って社会が目まぐるしく変化しております。大学もその例外ではありません。世界を相手に対等に渡り合っていくためには、その担い手となる若者を国際感覚豊かに育成していかなければなりません。感受性の強い学生時代に海外を体験することは、その後の勉学意欲やキャリア形成に好影響を及ぼします。本学でも、開学翌年の2002年から留学事業を開始し、これまで150名以上の学生を海外に派遣してまいりました。とりわけ、黒龍江省の東北林業大学とは2010年に基本協定を締結し、学生の交流を積極的に進めているところです。これもひとえに、貴協議会が築いてこられた黒龍江省との友好関係の土台があったのことに感謝いたしております。今後とも、貴協議会からのご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協議会のますますのご発展と会員の皆様のご健勝を心より祈念いたします。

# 東方水上シルクロード貿易促進協議会 設立20周年の祝辞

(社)日本港湾協会 名誉会長

**栢原 英郎**



東方水上シルクロード貿易促進協議会が設立20周年を迎えられたことに、心からお慶びを申し上げます。10周年をお祝いしたこと、それどころか夢とも思えた新しい航路開設の構想をお聞きしたことがつい昨日のように思われます。

この協議会のきっかけは、中国の黒竜江省から飼料穀物を輸入しておられた貴協議会の会長である新田嘉一平田牧場会長が、松花江とアムール川を利用した新しい航路開設を思い立たれたことにあります。素晴らしいことは、黒竜江省との間で航路開設の調印をされた数か月後には「貿易促進協議会」の設立準備に取りかかれたことです。航路開設と穀物の輸送というハードにとどまることなく、直ちに人と人、企業と企業を結びつける仕組みを準備されたその慧眼に敬服します。モノの流れも人のつながり、文化の交流を生み出しますが、やはり人と人のつながりには及びません。特に会長が常日頃語っておられるごとく「人のつながり」を大切にする中国との関係ではこのことは何より大切なことであったと思います。その発想が花を開き、庄内地方のみならず山形県の企業が黒竜江省をはじめとする東北三省に立地し、交易も盛んになっています。今回の「山形県産業賞」受賞という栄誉は、まさにそのことを内外に語るものです。

資料を拝見するとこの20年間の活動は、箇条書きにしてA4版で24ページおよそ1,000行に及んでいます。驚くべきことは、我が国経済が停滞し「失われた10年」ともいわれる最近10年間の活動が、当初の10年間の活動とほぼ同じであることです。これはその時々求められているものが何かという鋭い時代感覚、それを達成しようとする意欲と強い意志がなければ実現しないことです。10周年の記念誌に中国の要人が「10年の輝かしい歴史を築き上げてきた素晴らしい人達には、遠大で卓越した見識があり、現実的で実務的に物事を重視する精神があり、忍耐強く頑張り抜く気力があり、困難と知りながらも前進する勇気があり、物事を成し遂げる気概があった」と語っておられますが、このことはこの10年間にもさらに強くあてはまることであると感じます。

この10年近く中国は東北三省の発展を国の重大施策の一つとして力を注いできました。またロシアも首相が先頭になって極東ロシアの発展を推進していきました。中ロが協力して鉄道、道路を整備し、ロシアの港を改修して、黒竜江省や吉林省から日本海に出るルートも利用可能となりつつあります。黒竜江省、吉林省は大連ルート、松花江ルートに加えて短距離で海に出るルートを備えることとなります。これからの10年、東方水上シルクロード貿易促進協議会の意義、活躍の場はさらに大きくなるものと思われます。益々のご発展を願って、お祝いの言葉といたします。

# 祝 辞

酒田商工会議所 会頭

佐藤 淳司



東方水上シルクロード貿易促進協議会が設立20周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

1992（平成4）年8月4日、酒田港に中国・黒龍江省ハルビンから松花江～黒龍江～ロシア・アムール川を下り、間宮海峡から日本海を南下する全長2,800kmの川・海の新航路開設に尽力された新田嘉一氏は、中国で言う『井戸を掘った人』となりました。

新航路の開設を機に黒龍江省との貿易を促進するため、通関・輸送方法はもとより、代金決済や中国の法律にも精通したエキスパートが事務局を構成する日本側の組織『東方水上シルクロード貿易促進協議会』が同年12月17日に設立され、以来今日まで当所は一貫して業務を支援して参りました。

1992（平成4）年以前より当所の要望項目の中に「酒田港の整備促進」を掲げ、運輸省（当時）等へ要望活動を行っても、「港を活用できる荷物はありますか？」という俗に言う「鶏・卵論」の類の話が続いておりました。

このような中で「トウモロコシ」という新しい荷物が入港した実績により、現在のコンテナターミナルの設置にも結びついていることは、酒田港の基盤整備という観点からも多大な功績があった航路の開設でありました。

当所は新航路の開設を契機に、県内の商工会議所の他に、仙台商工会議所をはじめ宮城県内の商工会議所にも呼び掛け、東北地域で東西の距離が最も短い区間を活用する「地域連携軸」を通じた日本海側と太平洋側を結び、経済交流を行うランド・ブリッジ構想を提唱しました。

その後、この構想は山形県と宮城県の行政組織に移管しましたが、東日本大震災は、改めてこのルート的重要性を多くの人に認識させる結果となりました。

この構想を通じた石巻商工会議所との交流は、震災発生後、密接な形で支援できたことは、一つの成果ではなかったと思われます。

東方水上シルクロード貿易促進協議会の活動は、環日本海貿易関係者には広く周知され、酒田港の位置づけを大いに高めることになりました。

何より、黒龍江省関係政府機関や民間企業との人的ネットワークの形成という大きさ財産も得ることができました。

永い歴史を有する対岸諸国との貿易振興は、遙か渤海国史の時代より連綿と繋がっている歴史の一コマです。これまで築きあげられた協議会の実績を埋もれさせることなく後世に伝え、華やかなりし頃の環日本海交流の復活に引き続き貢献されることをご期待申し上げます。祝辞といたします。

# 祝 辞

黒龍江省人民政府外事弁公室 主任

## 趙 爾 力



日本山形県「東方水上シルクロード」貿易促進協議会設立20周年に当たり、私は黒龍江省人民政府を代表し、謹んで衷心よりお祝い申し上げます。

1992年に、我が黒龍江省の松花江、黒龍江を経て、ロシアのアムール川から間宮海峡を通り日本山形県酒田港に通じる一条の「江海聯運航路」即ち、「東方水上シルクロード航路」が開通されました。「東方水上シルクロード貿易促進協議会」はこの航路開通に伴い設立されたものです。この開設により、我が黒龍江省と日本山形県との経済貿易の交流の幕が開かれました。両地域の経済貿易交流の展開と共に、貴協議会の積極的な努力と絶大な推進力の下で黒龍江省と山形県は、1993年に友好省県の関係が正式に締結されました。

1997年には東方水上シルクロード貿易促進協議会の代表処が哈爾濱に設立され、同時に、貴協議会は専従者を哈爾濱に駐在派遣し、我が黒龍江省と山形県との経済貿易の連絡を更に一步緊密にしてきました。長年来、貴協議会は山形県政府及び山形県内企業と積極的に協調し、一年一回哈爾濱市で開催される「哈爾濱経済貿易商談会」に参加して頂きました。

1997年の第8回哈爾濱商談会期間中は、山形県から22の出展企業並びに団体で13ブース出展し、当時出展したその他の日本の各地区の中では最大の出展規模でありました。

2009年の第20回哈爾濱商談会の開催に当たり、東方水上シルクロード貿易促進協議会の突出した貢献を表彰するために哈爾濱商談会組織委員会は、東方水上シルクロード貿易促進協議会の新田嘉一会長に対し、最高級の賞である「功勳賞」を授与致しました。同時に、貴協議会の加藤俊一事務局長と岸高三アドバイザーには「榮譽賞」を授与しました。このことは、東方水上シルクロード貿易促進協議会が果たした両地域間の経済貿易関係の発展に対して、我が黒龍江省はその貢献を認めると共に高く評価したものであります。

黒龍江省は資源が豊富で、生態環境は良好で、科学技術の水準も高く、農業基盤は安定し、工業の支柱も突出しています。今後の我が黒龍江省は更に一步その速度を早め「八大経済区」建設を進め、「十大工程」を実施し、「富強の黒龍江省」「文明の黒龍江省」「調和のとれた黒龍江省」「美しい黒龍江省」「幸福な黒龍江省」の実現を目指していきます。これらは、山形県の経済界と企業界の皆様にとって必ずや多くのビジネスチャンスを提供してくれることでしょう。

2013年は黒龍江省と山形県との友好省県締結20周年の年を迎えます。これを機会に両省県の経済貿易及び多くの領域の交流と協力関係が更に頻繁になり、輝かしい成績が上げられますことを希望しております。

最後に、東方水上シルクロード貿易促進協議会のますますのご繁栄をお祈りするとともに、我が黒龍江省と山形県との友好関係がますます発展することをお祈り申し上げます。

# 祝 辞

元黒龍江省省委 書記

宋 法 棠



東方水上シルクロード貿易促進協議会成立20周年にあたり、謹んで熱烈に心からお祝い申し上げます。

東方水上シルクロード貿易促進協議会は設立されてから20年間、中国と日本及び北東アジア地域の経済貿易交流と合作の促進のため、多くの有効的な業務を推進してこられました。即ち、東方水上シルクロード航路の開通は、黒龍江省と山形県に一本の水上輸送ルートを開通しただけに留まらず、哈爾濱経済貿易商談会への参加出展は、中国取り分け黒龍江省と日本及び北東アジア地域との経済貿易協力関係を促進してきました。また、北東アジアフォーラム及び各座談会、そして報告会の開催参加を通じて経済貿易の情報を構築し、関連各方面の視野を広げて参りました。そして、訪問団の相互派遣により、相互理解と友誼を深めてきました。これらのことは、貴協議会が中日経済貿易の交流と協力促進のために多大なる貢献をされてきたことを証明するものです。

私本人が、黒龍江省の省長と省委員会書記在職期間中、幾度となく、貴協議会並びに山形県の朋友の皆様と接触して参りました。特に、貴協議会の新田嘉一会長とは個人的な友誼の深厚があります。新田嘉一会長は中日経済貿易協力を促進する熱情や中国人民への友好情誼、取り分け、東方水上シルクロード航路の開通と発展のための絶大なる貢献に対し、私は心から敬服しています。

私は東方水上シルクロード航路の発展が更に速く、更に良好になりますよう、黒龍江省と日本との経済貿易交流の発展が更に速く、更に良好になることを衷心よりお祈り致します。

# 祝 辞

元黒龍江省人民政府 副省長

馬 淑 潔



1992年、貴方と我が方の共同努力の下で、松花江から黒龍江を経て、直接日本酒田港に通じる「江海聯運航路」の開通に成功しました。この航路は黒龍江省と山形県との密接な地域連携を促進させる、正しく「一本の黄金の架け橋」でありました。この20年間、私たちは共に手を携え共に進み、私たちは共に発展することにより、私たちの間には濃厚な友誼を生み出してきました。山形県東方水上シルクロード貿易促進協議会の設立20周年に当たり、私は山形県の古き朋友として、ここに、私は謹んで熱烈に祝賀申し上げます。

「東方水上シルクロード航路」即ち、「江海聯運航路」の開通を契機に、山形県と黒龍江省は1993年に友好省県関係が締結され、この20年来、双方の多くの領域の友好交流と協力関係は長足な発展を遂げるとともに、多くの成果を上げてきました。これは、貴協議会の友人の皆様様の積極的な努力と切り離すことはできません。ここに改めて、新田嘉一会長及び貴協議会の友人の皆様に対し、この長期間にわたる黒龍江省と山形県との友好交流の発展に寄与されてきた貢献に対し、熱誠なる謝意を申し上げます。

「歳月は人間の容姿を変貌させますが、人間の友情を変貌させることはできません。」

この諺は黒龍江省と山形県東方水上シルクロード貿易促進協議会間の交流の歴史を正に物語っております。

10年前、私は黒龍江省政府代表団を引率して貴協議会の設立10周年の記念式典に参加させて頂いた光景は今も依然とありありと記憶に残っており、山形県民の熱情、貴協議会の友人の皆様様の黒龍江省に対する深厚な友情は、私に深い印象として残り、未だに忘れることはできません。

貴協議会は設立20周年を更なる出発点として捉え、我が黒龍江省政府及び経済界との間で両地域の経済社会の共同発展のために再び輝きを増しますように、衷心から希望しております。

最後に、山形県東方水上シルクロード貿易促進協議会の繁栄発展をお祈り致します。

# 祝 辞

元黒龍江省江海聯運促進協調委員会 主任

## 賈 福 林



東方水上シルクロード航路は多くの人々の期待と関心のもと、20年間の非凡な戦いの歴史を走り続けてきました。私はこれに対し、熱烈にお祝い申し上げます。

東方水上シルクロード航路、即ち、この黄金の航路の開通は周到な準備の段階から、起動、発展、拡大、そして繁栄の過程において、正に元黒龍江省人民政府副省長の故杜顕忠同志と、東方水上シルクロード貿易促進協議会新田嘉一会長のお二人の指導者の卓越した遠大な見識と堅持努力により結果がもたらされたと言っても過言ではありません。ここに、このお二人に対し、私たちは永遠に敬慕し、そして学習の模範としなければなりません。

この20周年の祝賀を迎えるに当たり、私たちはこれらの精栄をお手本として前進する中で多くの困難を克服し、波を蹴立てて前へ進み、帆を高く上げて航海を続け、更に活気に満ちた繁栄を続けなければなりません。

私たちは東方水上シルクロード航路の20年間に起こったことを他に変えることは出来ませんし、決して否定することは出来ません。黒龍江省と山形県との経済貿易の往来、文化交流、観光事業、合弁合作などの全ての方面で、衆目を集める成果を勝ち取ってきました。その意義は重大且つ深く簡単なことではありません。私たちはこの航路を愛し続け、これを契機にこの航路を更により良くし、更に完善なものにして皆を満足させ、成果を更に豊富多彩にしていかなければなりません。

前途は光り輝いていますがその道は紆余曲折しています。東方水上シルクロード航路と黒龍江省と山形県の友好の道は、長く、長く、長い道程であり、困難と問題も大変多くあると思いますが、私たちは共に団結を更に緊密にして準備を進め、一生懸命努力して更に光り輝く、眩い明日を迎えましょう。

# 祝 辞

中国国際貿易促進委員会黒龍江省委員会  
中国国際商会黒龍江商会 会長

馬 興 利



山形県東方水上シルクロード貿易促進協議会設立20周年に際し、私は謹んで黒龍江省貿易促進委員会と私個人の名義において衷心より祝賀申し上げます。

東方水上シルクロード貿易促進協議会は設立20年来、黒龍江省と山形県との経済貿易合作と文化交流及び民間友好往來の発展のために積極的な推進に力を注ぎ、黒龍江省と山形県との間で1993年締結された友好省県促進にも積極的に推進し、中日両国の友好合作のため重要な貢献をなされてきました。

東方水上シルクロード貿易促進協議会の設立は黒龍江省と山形県との間の一本の友好の懸け橋でもありました。この20年来、新田嘉一会長の指導と推進のもと、山形県政府の大きな支持を頂き、双方の経済貿易交流と協力関係は更に密接さを増し、1996年から、山形県の企業が哈爾濱商談会に出展を開始し、哈爾濱商談会に素晴らしい展示と顕著な実績を上げて来られました。

江海聯運ルートの開通とともに、東方水上シルクロード貿易促進協議会は双方の資源の優勢さを結合させ、大胆にそして新しい創造のもとで実直な開拓を進め、合作と投資や物流と運輸、そして農産品の輸入などの面において、積極的に有益な探索を進めて来られました。このことは双方に対し、理解と友誼を増進させるだけでなく経済貿易領域を展開し、優勢互惠を開拓創造しながら協力関係の相互利益や共存共栄の良好な局面を作り出してきました。

私本人は、光栄にも幾度となく招聘を受けて、山形県と東方水上シルクロード貿易促進協議会を訪問したことがあり、新田嘉一会長と各位友人の皆様から熱烈な接待を受けてきました。山形県の愁眉な山水、先進的な工業インフラや独特な物産資源、純朴な民族風習は、私の心に深い印象を残してくれています。新田嘉一会長は開放的であり、実直で有り且つ、誠心誠意のおもてなしで私たちに接して頂き、私は永久に忘れることはありません。私は両省県が更に協力関係を深めていくことが出来るものと確信しています。

東方水上シルクロード貿易促進協議会の設立20周年に当たり、私は衷心より、引き続き、貴協議会が独特の優勢さを発揮し、更に輝きを増し、新田嘉一会長の指導の下で中日両国及び黒龍江省と山形県との友好協力が更にその作用を発揮し、大いなる貢献をなされます様ご祈念申し上げます。

# 祝 辞

中国哈爾濱經濟貿易商談会弁公室 主任

## 陳 殿 運



山形県東方水上シルクロード貿易促進協議会成立20周年に際し、私は謹んで、中国哈爾濱經濟貿易商談会弁公室を代表して熱烈にお祝い申し上げます。同時に、新田嘉一会長に対し、山形県と黒龍江省との協力関係発展の促進のためにご尽力なされたことに崇高なる敬意を表します。

過去20年間を回顧すれば、新田嘉一会長と東方水上シルクロード貿易促進協議会の友人の皆様は、中日友好促進のため、黒龍江省と山形県との經濟貿易合作及び文化交流促進のため積極的な貢献をなされてきました。特に、貴協議会は長年にわたり、山形県の優良企業を「哈爾濱商談会」への出展を通じて、黒龍江省と山形県の双方地域の企業間の相互理解と友誼の増進の推進作用を深めてきました。同時に、黒龍江省と山形県との間の經濟貿易交流と更なる今後の発展の基礎を打ち立てて頂きました。

東方水上シルクロード貿易促進協議会の今日の輝きは、黒龍江省と山形県の両省県の各方面にわたる交流をますます発展させると共に、新田嘉一会長の積極的に努力と絶大な支持支援と切り離すことはできません。中国の古い諺に「水を飲む時は、井戸を掘った人を忘れてはいけない。」とありますが、私はこの機会をお借りして、改めて、新田嘉一会長並びに東方水上シルクロード貿易促進協議会の皆様に対し、崇高なる敬意と衷心より感謝の意を申し上げます。同時に、私たち哈爾濱商談会弁公室は今後の業務においても、引き続き、東方水上シルクロード貿易促進協議会との協力関係を更に強化させて頂き貴協議会と共に黒龍江省と山形県との經濟貿易交流と友好交流のために、更なる努力を続けて参りたいと希望しております。

最後になりますが、東方水上シルクロード貿易促進協議会が新田嘉一会長の下で、更に繁栄発展し、拡大強化されますことを衷心よりお祈りしています。また、貴協議会の古き友人の皆様に対し、引き続き、哈爾濱商談会に対する熱情あふれる支持と、大いなる支援のほど頂きますよう衷心よりご希望申し上げます。

# 東方水上シルクロード貿易促進協議会 設立20周年 祝辞



黒龍江東北林業大学 校長

**楊 傅 平**

20年 2,800キロメートル

開通までの多く困難を乗り越え、先人が無し得なかったこの功績に対し称賛します。

東方水上シルクロード貿易促進協議会設立20周年に当たり、私は東北林業大学を代表し及び私個人の名義で、謹んで衷心より祝賀申し上げます。

2010年に東北林業大学と日本山形県酒田市の東北公益文科大学は姉妹校の締結を行い、この2年間、両大学は広範な人事往来と業務往来を進めて参りました。このステージを構築し協力を進めてきた人は、正しく、東北公益文科大学の理事長であり、東方水上シルクロード貿易促進協議会の新田嘉一会長であります。そして、東方水上シルクロード貿易促進協議会哈爾濱代表処の岸高三氏でありました。ここに、私は新田嘉一会長に対し、両国、両校の教育事業への関心と支持に衷心より感謝申し上げます。

この度、私は東方水上シルクロード貿易促進協議会の1990年代から今日までの輝かしい歴史を理解する機会を得ました。松花江から黒龍江、そしてアムール川を経て酒田港に至る一本の江海聯運航路は、山形県と黒龍江省との経済貿易交流の懸け橋であり、両省県の経済発展を先導し、同時にまた、中日間の東北地域の経済貿易発展への貢献は無限大の力であります。私もこの「黄金水路」を高く評価するとともに、この一本の航路が有形無形の富を創造させたことは計り知れないものであります。当然のように、私は想いもつかないようなこれら行動をとった日中双方の先駆者に対し、心から感服いたします。

1993年に黒龍江省と山形県の友好省県が締結されました。この20年の歴史の中で、経済、貿易、教育文化、人事交流などの各方面の交流が実現されてきました。東方水上シルクロード貿易促進協議会はその目撃者であり、証人であります。且つ、両省県の経済成長を促進し、同時に、貴協議会自身が留まることなく発展させてきたことは、その価値が両省県並びに両国家間の交流の中で極めて重要なことでもあります。

未来に向かう中においても東方水上シルクロード貿易促進協議会がますます勢いを増し、再び輝き続けることを祈っています。

# 祝 辞

元黒龍江省航運管理局 常務副局長

## 陳 雪 楽



山形県東方水上シルクロード貿易促進協議会成立20周年を迎えるに当たり、私は元黒龍江省江陸海聯運（東方水上シルクロード航路）の業務責任者として、また、東方水上シルクロード貿易促進協議会の老朋友の名義において貴協議会に対し熱烈に祝賀申し上げます。

20年の時空を超えて1992年8月を思い起せば、黒龍江省の船員たちは、黒龍江省の肥沃な黒土で生育した黒龍江省産のとうもろこしを満載し、歴史上初めて自ら本船を操縦し、哈爾濱港を出港してから「松花江」と「黒龍江」を経て直接日本海を航行し日本山形県酒田港に着岸しました。即ち、東方水上シルクロード航路の第一船が運行され、黒龍江省から直接海に出ると言う百年來の宿望が実現した時であります。丁度この年は酒田港開港500周年の記念すべき年でもありました。これは黒龍江省と山形県との両地域の経済貿易の発展の成果であり、更に両省県人民の友誼の結晶でもありました。

この20年を顧みれば、私たちは共に輝かしい歴史の中、深い感情と重い責任、そして遠い道のりを走り続けてきました。20年の苦しかった努力、20年の豊かな成果、20年の共済と支持、20年の合作と友誼は共に一つの目標でもある東方水上シルクロード航路を構築するためでありました。

北東アジアの黄金水路である江海聯運航路の開通は、黒龍江省と山形県との経済貿易往来促進と北東アジア地域の経済交流拡大に交通条件の便利さを提供し、黒龍江省と山形県との友好省県関係の締結に積極的な推進をしてきました。

私はすでに退職してから10数年になりますが、私の心の中には、当時、私たち黒龍江省の船員たちが「おしんの故郷」酒田港に到着した時の熱烈な歓迎ぶりを常に思い出しています。また、私はこの東方水上シルクロード航路が今後更に拡大発展していくものと確信しています。中国の著名な詩人である王之涣の「登鶴雀楼」の詩の中に「この素晴らしい眺めを遙か千里先までみきわめようとして、鶴雀楼を更に一階上に登る」とあります。私たちも更に高く遠いところを目指し、東方水上シルクロード航路の素晴らしいものにしていきましょう。

「おしんの故郷」酒田港が更に素晴らしくなることを衷心よりお祈り申し上げます。  
貴協議会の繁栄と発展を衷心よりお祈りいたします。

# 20年間の風雪の歴史と 輝かしさの創造

哈爾濱嘉天房地產開發股份有限公司  
董事長兼總經理

桑 洪



東方水上シルクロード貿易促進協議会

尊敬する新田嘉一会長

東方水上シルクロード貿易促進協議会成立20周年を迎え、私は衷心より祝賀と祝福を申し上げます。

20年間の風雪風雨の中で、貴協議会新田嘉一会長の指導の下、中国黒龍江省と日本との友好合作と友誼に対し絶大なる貢献をなされてきました。それに伴い、新田会長の支援により、私達も山本製作所やクボタとのパートナー締結など広範囲な協力関係が構築され、多方面にわたる貿易往來を促進することが出来ました。また、私達らは共同で何度も哈爾濱經濟貿易商談会に参加いたしました。その結果、友誼と貿易は絶え間なく発展し続け、新しい朋友は古き朋友となり、古き朋友は親密な兄弟と変わってきました。

過去を回顧すれば私達らは忘れることはできないし楽しく愉快でした。私達らは友誼を培い、未来を展望し、信念で満杯です。

私達らは東方水上シルクロード貿易促進協議会が、この満ち溢れる商機と友誼と言う肥沃な土壤の中から成果を上げ、素晴らしい未来を実現されますことを衷心よりお祈り申し上げます。

# 祝賀「東方水上シルクロード航路」 開通20周年

黒龍江省天正糧油食品進出口股份有限公司  
黒龍江省対外経貿集団 董事長

王 曉 天



粉雪が舞い散り、大地が銀世界に覆われているこの季節に、私たちは「東方水上シルクロード航路」開通20周年の喜ばしい日を迎えることが出来ました。私は黒龍江省天正糧油食品進出口股份有限公司を代表し、謹んで衷心よりお祝い申し上げます。

20年前、中日両国の有識者のたゆまぬ努力の下で哈爾濱を出発港として、松花江、黒龍江から直接、日本の酒田港に通じる貿易ルートを開通いたしました。このルートは、正しく黒龍江省と山形県との友好往来と共に国際貿易の懸け橋となり、私たちの間の連携と双方の共同努力で友好省県が締結されました。

20年前、私たちは共に黒龍江省人民政府 7 階会議室において、新航路を利用した歴史的な第一回目のとうもろこし6,000トンの契約書に調印しました。このことは、当時、日本の八大商社が独占していた中国のとうもろこし貿易に対し、平田牧場がそれに風穴を開け、平等な貿易を開始した歴史的に事であり、また、「東方水上シルクロード航路」が国際貿易の歴史的な新編纂のページを捲った時でもあります。

20年間、この東方水上シルクロード航路の開通を契機にして「陸海聯運」の綏芬河国際貿易ルートを開通し、その後「鉄海聯運」の錦州港/酒田港の国際貿易ルートも開通して参りました。また、非遺伝子組み換え（NON-GMO）とうもろこしの「国際産直契約生産基地」を作り上げ、年生産量は5～6万トんに達しています。北京の中国糧油食品総公司の支持の下で、平田牧場をはじめ、生活クラブ生協連合会や全農の認可を得ながら長期協力協議書に調印しました。この20年間で飼料用とうもろこしの輸出量は43隻、約82,000トんに達し、我が黒龍江省と日本山形県との国際貿易往来に大きく貢献して参りました。

輝かしい2013年を迎え、私たちは日中双方の古き友人と新しき友人との共同努力の下で、更に「東方水上シルクロード航路」が輝きますことを祈っています。

# 合弁企業「15年」の感想

齊々哈爾富佳機械修造有限公司 董事長

## 陳 双 林



1994年4月4日から9日までの期間、東方水上シルクロード貿易促進協議会の招聘により、私は黒龍江省外国投資管理局の王津永局長を団長とする一行6名とともに、黒龍江省経済技術合作訪日代表団の一員として山形県を友好訪問しました。この期間、新田嘉一会長及び各界の友人の皆様から熱烈な歓迎と友好的な接待を受け、山形県内の視察や考察と学習を深め、私たちは日本の企業を更に理解することが出来ました。また、王津永団長は黒龍江省の外資導入企業誘致に関する政策や規定を講演発表し、日本山形県側の多くの皆様から黒龍江省についての理解を深めて頂き賛同を得ました。

その後、私たち双方は友好的で相互信頼の基礎の上に「合弁企業意向書」に調印いたしました。また、能登山物産から9台の中古農機具のトラクターやコンバインを、そして、当時の村井秀三貴協議会副会長から個人的に贈呈して頂いた水稲脱粒機1台で合計10台のサンプル輸入することが確定致しました。この期間の友好訪問活動中に山形県政府知事を表敬訪問し、知事からも大変重要視して頂きました。1994年7月23日には、この10台の中古農機具は東方水上シルクロード航路の帰り貨物として、酒田港を出港し、ロシアのハバロフスクと黒龍江省の撫遠港経由で輸送されました。これが私たちの合弁企業の基礎となりました。

1995年2月21日に黒龍江省哈爾濱市で「齊々哈爾富佳機械修造有限公司」という、中日合弁企業の議定書が(有)能登山物産の能登山義一社長、龍山交易(株)の岸高三先生との間で調印されました。同年4月2日には、私たちは「合弁企業契約書」「合弁企業定款」に調印し、齊々哈爾富佳機械修造有限公司は両省県友好交流締結以降、山形県では第一番目の日中合弁企業となりました。

1995年から1997年まで期間に中古農機具80台とその部品を輸入し、1996年以来、16回連続哈爾濱商談会に山形県出展団として出展してきました。この15年間の合作中、終始両省県の地方政府の絶大な支持を受けてきました。哈爾濱商談会の期間中には、山形県知事が私達の出展ブースに視察に来られ、親切にお声をかけて頂き、励ましを頂きました。

新田嘉一会長は、高い志と指導力を持って「東方水上シルクロード航路」の開設にご尽力いただきました。私たちは新田会長を両省県の友好関係締結以来の第一人者であり、また、中古農機具貿易の先駆者であることを確信しています。新田嘉一会長は私たち齊々哈爾富佳機械修造有限公司の成立促進にはなくてはならない人であります。長年の間、能登山義一社長と岸高三代表は私たち合弁企業のために積極的な貢献をされてきました。私たちは合弁企業の最終期限を円満に迎え、深厚な友誼と確固たる信頼関係を構築し、この信頼関係は経済関係の範囲をはるかに超え、その友好関係を基礎にして2010年に再度合弁期間を10年間延長することにしました。

2013年には、双方で締結された友好省県の20周年を迎えます。ここに、私は更に深い協力関係を構築することを衷心より希望し、新エネルギー、環境保護、有機肥料などの領域の投資合作項目に関する研究を進め、中日両国の市場価格構造の不均衡問題とその問題点を解決し、私たちの更なる勝利のために奮闘努力致しましょう。

更なる大きな成果の獲得、満足のいく経済効果の果実収穫、更なる合作領域を深化させていきましょう。